

2024 年 1 月 22 日

2023 年 12 月度市況

東京洋紙同業会（紙青会作成）

<印刷用紙 A>

平判は全体的に低調で学参、金融関連の一部に若干の動きが見られたものの前年を大幅に下回った。

巻取は定期品や小ロットの物件が中心で、年末の慌たしさもなく前年を大幅に下回った。

（前年比 平判 86.9% 巻取 82.2%）

再生紙平判は入札案件の受注増加により前年をやや上回った。

再生紙巻取は定期案件の他は大口案件が見当たらず前年を大幅に下回った。

（前年比 再生上質平判 102.1% 再生上質巻取 57.5% 再生上質計 69.6%）

（前年比 印刷用紙 A 全体 86.0%）

（2019 年比 印刷用紙 A 計 71.8%）

<A2 コート>

平判は各種イベント、旅行関連で一定数の動きが見られたが、雑誌関連では恒常的にページ数と部数の減少、廃刊の動きが進んでおり、グロス、マット共に前年を下回った。

巻取は各種イベント、食品デリバリー、ドラッグストア、不動産で一部動きが見られたが、金融、生損保、教育関連の動きが鈍かった。また、定期雑誌においても落ち込みが続いており、グロス、マット共に前年を下回った。

（前年比 平判 91.8% 巻取 91.8% 全体 91.8%）

（2019 年比 A2 コート計 72.3%）

<A3 コート>

旅行パンフ、食品デリバリー、スーパー、ドラッグストアのスポットチラシ案件で動きが見られたが、巻取は前年を大幅に下回った。

（前年比 平判 95.7% 巻取 75.9% 全体 81.6%）

（2019 年比 A3 コート計 64.6%）

<ノーカーボン紙>

平判はインボイス絡みの帳票や生損保案件の動きが見られ前年並みの動きとなったが、巻取は生損保、共済関連の大口案件の web 化に伴い、前年を大幅に下回った。

（前年比 平判 100.1% 巻取 74.7%）

<上質フォーム>

電帳法改正に伴い民間案件の動きは鈍く、自治体の通知物のスポット案件の動きも見られず、前年を大幅に下回った。

(前年比 80.0%)

<包装用紙>

特殊両更は全般的な需要減からの回復傾向が見られず、極めて低調だった前年とほぼ同等の動きとなった。

(前年比 108.1%)

軽包装は全般的に印刷物の動きが悪い影響で、製本会社向けの雑包装用途の動きも鈍く、前年を大きく下回った。

(前年比 73.2%)

片艶晒は供給不足によって他銘柄へ移行してしまって以降、低調が続いており前年を下回った。

(前年比 90.5%)

両更晒は一般企業向け封筒で一部動きがあったものの全体的には動きが低調で前年を下回った。

(前年比 82.6%)

色クラフトは一般企業向け封筒で僅かに動きがあったものの価格修正による他銘柄への移行の影響もあり、低調であった前年の数字にも届かない結果となった。

(前年比 96.9%)

純白ロールは菓子包装用途、スーパーマーケット向けに動きは見られたが、好調だった前年を下回った。

(前年比 86.9%)

包装紙全体では 82.8%と前年を下回った。

<板紙>

コートボールはボックスティッシュからソフトパックへの買い替えが増加しバレンタイン関係の追加もなく低調であった。

特板は医薬品、化粧品は好調であったがインバウンド需要が伸びず低調であった。

高板はトレーディングカードが堅調であり商印関係は前年並みであった。

チップボールは一部の児童本、上製本で動きがあったもののエンタメ、梱包材系が低調であった。

(前年比 97.8%)